

平成25年3月11日(月)実施 外部評価結果

研究部 ／センター	評価項目					評価者数	コメント	
	(I)各研究部／センターに関わる事項							
	平成24年度実績							平成25年度計画
	a. 計画の実施	b. 運営の方法	c. 目標の達成	d. 成果の発信	計(a～d)			e. 計画の妥当性
栄養疫学 研究部	4.57	4.43	4.29	4.14	4.36	4.57	<p>(I)各研究部／センターに関わる事項</p> <p>【平成24年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広汎なデータの収集及び解析に努力の跡が見られる。 ・健康・栄養調査の解析検討をもう少し詳細に行ってもらえないか。「健康格差の解消」が新たな「健康日本21」の大目標になっているので、都道府県別の解析など希望します。エネルギー摂取量の推移も年齢補正をしていただきたい。 ・国民健康・栄養調査／3倍(24, 000世帯)の拡大調査の実施、帳票の引き渡しを電子データ化したことは、評価できる。回収率の変化は？ ・食事摂取基準／Ca、Fe、Zn、VB1、VC、日本人対象エビデンス不足、現場使用のわかりにくいタイムラグ、65歳以上高齢者のエビデンス不足・健康較差、相当数のデータ回収、解析を期待しています。 ・拡大調査となった国民健康・栄養調査の実施に関して、優れた実績となっている。QRコードの導入と、処理の電子化を果たした点が、評価される。 ・食事摂取基準のエビデンスが充分であるかについて、配慮が細かくなっている点について評価される。 ・国民健康・栄養調査などの調査に多大な貢献をしたと考える。 ・国民健康・栄養調査に対してデータ解析等含めよく検討され調査も拡大しており評価できる。 ・食事摂取基準に対してはエビデンス不足部分についての抽出、課題検討がされ評価できる。日本人の調査の少ない部分についても引き続き実施することを希望する。活用まで繋げた。 <p>【平成25年度計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後はデータの利用率を考慮してほしい。 ・妥当です。 ・法定業務に対して要点をおさえた研究課題が選択されている。 ・妥当である。 ・引き続き研究所でしか行えない調査・研究に期待する。 	

◎各研究部／センターの評価項目

- a:中期目標の達成に向けて調査研究・業務の方向性・実施は適切か。
- b:中期目標の達成に向けて研究部／センターは適切に運営されているか。
- c:中期目標の達成に向けて年度計画は着実に実施されているか。
- d:調査研究・業務の成果は論文、学会発表等を通じて発表、あるいは情報発信、社会還元されているか。
- e:中期目標の達成に向けて次年度計画は妥当適切か。

◎評価の基準

5:たいへん優れている 4:優れている 3:普通である 2:劣っている 1:非常に劣っている

平成25年3月11日(月)実施 外部評価結果

研究部 ／センター	評価項目					評価者数	コメント	
	(I)各研究部／センターに関わる事項							
	平成24年度実績							平成25年度計画
	a. 計画の実施	b. 運営の方法	c. 目標の達成	d. 成果の発信	計(a～d)			e. 計画の妥当性
健康増進 研究部	4.71	4.14	4.57	4.29	4.43	4.29	<p>(I)各研究部／センターに関わる事項</p> <p>【平成24年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動と要因について興味のある成果が得られている。得られた成果は解りやすく公報する必要があるだろう。 ・健康・栄養調査の分析結果をもっと詳細に行っていただきたい。介入やコホートは当然必要だが、現状分析はこの研究所でないと出来ないと思われる。 ・総じて良く行われている。 ・高齢者のための身体活動の基準を待っていました。「今よりも増やす」というわかりやすい、誰にでもやる気になる表現は、より国民に近づいた表現だと思います。 ・大規模介入研究の±2. 5年で腰痛有訴が半分になるのも興味深い。 ・限られた職員でありながら、着実に成果をあげている。 ・運動基準改定のためのレビュー研究が充実している。妥当性検証のための大規模介入研究が優れている。新設の身体活動評価研究室においては、多様な研究テーマに意欲的に取り組んでいると言える。 ・主に運動指針の策定に貢献したと考えています。 ・運動ガイドラインでは、65歳以上の基準や全年齢における身体活動の考え方など新しい情報があり評価できる。 ・日本では実施が少なかった大規模介入研究は研究所ならではの研究であり、今後の結果を期待する。 ・身体活動評価研究室は、成果が出ており評価できる。 <p>【平成25年度計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都道府県別の解析も進めていただきたい。(身体活動・運動について) ・被災者の健康調査、身体活動疫学研究(25年前から5000人)の成果を期待します。コホート研究の追跡と充実を期待します。 ・研究展開の着眼点が適切と言える。 ・妥当である。 ・今後も引き続き調査研究、情報発信を望む。 	

◎各研究部／センターの評価項目

- a:中期目標の達成に向けて調査研究・業務の方向性・実施は適切か。
 b:中期目標の達成に向けて研究部／センターは適切に運営されているか。
 c:中期目標の達成に向けて年度計画は着実に実施されているか。
 d:調査研究・業務の成果は論文、学会発表等を通じて発表、あるいは情報発信、社会還元されているか。
 e:中期目標の達成に向けて次年度計画は妥当適切か。

◎評価の基準

5:たいへん優れている 4:優れている 3:普通である 2:劣っている 1:非常に劣っている

平成25年3月11日(月)実施 外部評価結果

研究部 ／センター	評価項目					評価者数	コメント	
	(I)各研究部／センターに関わる事項							
	平成24年度実績							平成25年度計画
	a. 計画の実施	b. 運営の方法	c. 目標の達成	d. 成果の発信	計(a～d)			e. 計画の妥当性
臨床栄養 研究部	4.29	3.86	4.57	4.29	4.25	4.14	<p>(I)各研究部／センターに関わる事項</p> <p>【平成24年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの成果があがっているので、発信が重要となる。 ・発表が他と異なっていて研究発表になってしまっている。a,b,c,dの形式で発表していただき良かった。国の研究所の研究として、妥当なのか。 ・「2型糖尿病遺伝子の同定、できても20%しか説明できないとは」容易ではない道のりですね。1,000Gプロジェクトに期待します。 ・モデルマウスの作成もなされていて、複雑にからみあった発症機序の解明が待たれます。 ・競争的研究資金の獲得も努力する必要がある。 ・臨床栄養に関する基礎研究が優れている。24年度の活動がどこからどこまでがその内容であるのか、分かるようにご説明下さると、なお良いと思いました。 ・競争的資金での成果がどこに対応するのでしょうか。 ・国際競争力のある優れた研究成果が出ていることは高く評価される。 ・減少しないメタボリックシンドロームや糖尿病の発症に関連する遺伝子解析は重要な研究と思われる。また、各栄養素摂取量と脂肪合成の違いなど一次予防や治療としての栄養・食事介入までにつなげてほしい。 <p>【平成25年度計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学のアカデミズムの研究とどこが違うのか。 ・国際競争力のある高度な研究計画となっているが、平成25年度に何を行うのか明確になるとよい。 ・妥当である。 ・今後の継続を期待する。 	

◎各研究部／センターの評価項目

- a:中期目標の達成に向けて調査研究・業務の方向性・実施は適切か。
- b:中期目標の達成に向けて研究部／センターは適切に運営されているか。
- c:中期目標の達成に向けて年度計画は着実に実施されているか。
- d:調査研究・業務の成果は論文、学会発表等を通じて発表、あるいは情報発信、社会還元されているか。
- e:中期目標の達成に向けて次年度計画は妥当適切か。

◎評価の基準

5:たいへん優れている 4:優れている 3:普通である 2:劣っている 1:非常に劣っている

平成25年3月11日(月)実施 外部評価結果

研究部 ／センター	評価項目						評価者数	コメント
	(I)各研究部／センターに関わる事項							
	平成24年度実績					平成25年度計画		
	a. 計画の実施	b. 運営の方法	c. 目標の達成	d. 成果の発信	計(a～d)	e. 計画の妥当性		
栄養教育 研究部	4.14	4.29	4.43	4.29	4.29	4.14	7	<p>(I)各研究部／センターに関わる事項</p> <p>【平成24年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種データの作成中が多く、出来るだけ結論が望まれる。 ・良く研究をやっておられる。少数患者のエネルギー必要量に関する研究を行っておられるが、よろしいのではないか。 ・高齢者の自立、効果的な栄養改善、小児から高齢者のライフステージに応じた食育、地域高齢者の食生活支援の調査は解析中。災害時の食事支援、食育研究／妊婦の食生活指導、28週時調査を行っている。昨年度、研究者が不在であったセクションだったと思います。 ・食品表示に関しては、消費者にどんな情報を伝えたいかを基本に項目を考えてほしい。法律のため、企業責任を受けるためにある表示が従来の方法で、大変不親切です。 ・競争的資金を積極的に活用し着実な成果をあげている。 ・高齢有患者の食生活支援に関する研究が優れている。震災に関する食生活研究は、時期を得ていると言える。食育研究では、共食のレビュー研究が、次期健康日本21と連動していて、優れたテーマといえる。 ・高齢者の低栄養、配食サービスの調査研究が行われており評価できる。 ・避難所での調査は、貴重なデータであり、今後災害時等に利用できるような対応を望む。 ・有患者のエネルギー必要量の対象を増やしてほしい。 <p>【平成25年度計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的実効性に思える。 ・妥当である。 ・高齢者、幼児、有患者の調査の継続を望む。

◎各研究部／センターの評価項目

- a:中期目標の達成に向けて調査研究・業務の方向性・実施は適切か。
- b:中期目標の達成に向けて研究部／センターは適切に運営されているか。
- c:中期目標の達成に向けて年度計画は着実に実施されているか。
- d:調査研究・業務の成果は論文、学会発表等を通じて発表、あるいは情報発信、社会還元されているか。
- e:中期目標の達成に向けて次年度計画は妥当適切か。

◎評価の基準

5:たいへん優れている 4:優れている 3:普通である 2:劣っている 1:非常に劣っている

平成25年3月11日(月)実施 外部評価結果

研究部 ／センター	評価項目						評価者数	コメント
	(I)各研究部／センターに関わる事項							
	平成24年度実績					平成25年度計画		
	a. 計画の実施	b. 運営の方法	c. 目標の達成	d. 成果の発信	計(a~d)	e. 計画の妥当性		
基礎栄養 研究部	4.57	4.43	4.43	4.14	4.39	4.43	7	<p>(I)各研究部／センターに関わる事項</p> <p>【平成24年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3METs以上の身体活動のみではなく、3METs未満のNEETに関する研究やSedentaryの研究も行ってほしいところである(これ以上研究項目を増やすのは心苦しいのですが)。 ・ddyマウスの解析、LPL活性が減少。高脂肪食により、肥満、脂肪肝になりやすいPFCバランスの解析は期待します。食事摂取基準、子ども、高齢者の標準値は外国が基(70歳代前半)。日本人の数値。 ・室がひとつ健康増進研究部から移ってきたことで、業務が増えたことが想像されるが、十分な活動状況といえる。基礎栄養研究では、脂肪代謝の研究が優れている。エネルギー摂取基準の課題に関する解析が高度といえる。運動との関連が大きいので、健康増進研究部との連携が望ましいといえる。 ・食事摂取基準のデータが不足している対象者での検討がなされており評価できる。 ・栄養素量や比率の違いによる肥満の研究はモデルマウスに留まらずヒトへの検討まで繋げることを希望する。 <p>【平成25年度計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・IAAO法の実験プロトコル。エネルギー消費量の見直し、PECバランスの見直しを期待します。 ・継続研究の年次の区切りが実行性が配慮され、きちんとしている。 ・妥当である。 ・引き続き成果を期待する。

◎各研究部／センターの評価項目

- a:中期目標の達成に向けて調査研究・業務の方向性・実施は適切か。
 b:中期目標の達成に向けて研究部／センターは適切に運営されているか。
 c:中期目標の達成に向けて年度計画は着実に実施されているか。
 d:調査研究・業務の成果は論文、学会発表等を通じて発表、あるいは情報発信、社会還元されているか。
 e:中期目標の達成に向けて次年度計画は妥当適切か。

◎評価の基準

5:たいへん優れている 4:優れている 3:普通である 2:劣っている 1:非常に劣っている

平成25年3月11日(月)実施 外部評価結果

研究部 ／センター	評価項目						評価者数	コメント
	(I)各研究部／センターに関わる事項							
	平成24年度実績					平成25年度計画		
	a. 計画の実施	b. 運営の方法	c. 目標の達成	d. 成果の発信	計(a～d)	e. 計画の妥当性		
食品保健 機能研究部	4.29	4.14	4.29	4.29	4.25	4.43	7	<p>(I)各研究部／センターに関わる事項</p> <p>【平成24年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しい文献にない項目に良くトライしている。 ・特定保健用食品に関連したことについては、国際規準と異なっているところが(多く)あるので、国際規準との整合性をとっていただきたい。 ・栄養表示は正確か？外部精度管理評価、VC大量摂取時の安全評価、骨粗鬆症モデル動物への食物エストロゲンの有効性など。 ・着実な成果をあげている。 ・法に基づく定例業務を十分に実施しているといえる。分析結果・精度管理の方法論の確立について、協力体制が創設されたことが評価される。 ・食品表示・食品機能に関する基礎的研究が優れている。 ・登録試験機関の外部精度管理は研究所が主体になって実施されたことは評価できる。 ・ビタミンCは比較的安易に撮りがちであることから、安全性評価が重要であり評価できる。 <p>【平成25年度計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続研究に新たな視点を加え、すぐれた計画となっている。 ・妥当である。 ・引き続きの成果を期待する。

◎各研究部／センターの評価項目

- a:中期目標の達成に向けて調査研究・業務の方向性・実施は適切か。
 b:中期目標の達成に向けて研究部／センターは適切に運営されているか。
 c:中期目標の達成に向けて年度計画は着実に実施されているか。
 d:調査研究・業務の成果は論文、学会発表等を通じて発表、あるいは情報発信、社会還元されているか。
 e:中期目標の達成に向けて次年度計画は妥当適切か。

◎評価の基準

5:たいへん優れている 4:優れている 3:普通である 2:劣っている 1:非常に劣っている

平成25年3月11日(月)実施 外部評価結果

研究部 ／センター	評価項目					評価者数	コメント	
	(I)各研究部／センターに関わる事項							
	平成24年度実績							平成25年度計画
	a. 計画の実施	b. 運営の方法	c. 目標の達成	d. 成果の発信	計(a～d)			e. 計画の妥当性
情報センター	4.71	4.57	4.86	4.86	4.75	4.29	<p>(I)各研究部／センターに関わる事項</p> <p>【平成24年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有害情報の解析に新しい手法を用い成果をあげている。また、提供データの評価も行っている。 ・情報センターとして予算がかなり出ているが、自分の財団よりも、財政的豊かであることうらやましく思いました。良くやられていると思いました。 ・情報発信・データベースの充実 ・ハイリスクグループの利用実態の把握と対応(ダイエツハーブ) ・1日10,000件のアクセス数、データベースの充実、利用率も定着しましたね。評価票の試作も期待します。 ・国民やユーザーの求める適切で信頼のおける情報が発信できている。 ・サーバー関連の定例的な業務を確実に実施しているといえる。データベースに関する研究は要点がしぼられており、優れている。 ・有害情報については、3年間の成果がよくまとまっている。サプリメント等の今日的課題とマッチした研究成果となっている。 ・栄養情報技術研究室は、啓発についての定例業務が負担でないか？ ・膨大なデータの幅広い対応が行われているうえ、データベースの利用実態の調査もなされており評価できる。 ・信頼できる情報発信が行われていることは、ニーズも高くなり、さらに大変であるが、安心して使用できるデータの対応に期待する。 <p>【平成25年度計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日々変化する情報をキャッチするのは大変ですが、今後もスピーディな対応をお願いします。 ・厚労科研に基づいた計画がきちんとたてられている。 ・極めてスムーズに進行しているので、これからも期待している。 ・研究所の重要な部分であり、今後も期待する。 	

◎各研究部／センターの評価項目

- a:中期目標の達成に向けて調査研究・業務の方向性・実施は適切か。
 b:中期目標の達成に向けて研究部／センターは適切に運営されているか。
 c:中期目標の達成に向けて年度計画は着実に実施されているか。
 d:調査研究・業務の成果は論文、学会発表等を通じて発表、あるいは情報発信、社会還元されているか。
 e:中期目標の達成に向けて次年度計画は妥当適切か。

◎評価の基準

5:たいへん優れている 4:優れている 3:普通である 2:劣っている 1:非常に劣っている

平成25年3月11日(月)実施 外部評価結果

研究部 ／センター	評価項目						評価者数	コメント
	(I)各研究部／センターに関わる事項							
	平成24年度実績					平成25年度計画		
	a. 計画の実施	b. 運営の方法	c. 目標の達成	d. 成果の発信	計(a～d)	e. 計画の妥当性		
国際産学 連携センター	4.14	4.00	4.14	4.00	4.07	4.14	7	<p>(I)各研究部／センターに関わる事項</p> <p>【平成24年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・WHOCCの指定に時間がかかっている。おそらく、国際的な交流や発信力が弱いのではないか。 ・アジアの研究拠点として各国の研究者との共同研究をリードする実力を発揮してください。 ・アジア人でのデータベースづくり、研究も活性化されます。 ・国際栄養、生物統計など多岐にわたる研究テーマにつき、精力的な研究活動が展開されている。 ・NR制度について、適切な進展が計画されている。 ・多くの研究部の協力を得た業務が展開され、連携が優れている。 ・国際対応が行われており評価できる。 ・NRの第三者移管まで、質の確保を望む。 ・国際的な情報発信の継続を期待する。 <p>【平成25年度計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・是非、WHOCCの指定を受けていただきたい。応援します。 ・WHO研究協力センターの認可を期待します。アジアを束ねる国としての存在をアピールして下さい。 ・経常研究に新しい視点が組み入れられている。 ・引き続きの成果を期待する。

◎各研究部／センターの評価項目

- a:中期目標の達成に向けて調査研究・業務の方向性・実施は適切か。
 b:中期目標の達成に向けて研究部／センターは適切に運営されているか。
 c:中期目標の達成に向けて年度計画は着実に実施されているか。
 d:調査研究・業務の成果は論文、学会発表等を通じて発表、あるいは情報発信、社会還元されているか。
 e:中期目標の達成に向けて次年度計画は妥当適切か。

◎評価の基準

5:たいへん優れている 4:優れている 3:普通である 2:劣っている 1:非常に劣っている

平成25年3月11日(月)実施 外部評価結果
(Ⅱ) 研究所全般にわたる事項

評価項目	評価	評価者数	コメント
① 研究所の目的、理念に合致した運営がなされているか。	5.00	7	<ul style="list-style-type: none"> ・人数の制限の中で良くされていると思う。 ・目的と理念に合致している。 ・ほぼ目的、理念に合致した運営がなされており評価できる。 ・国民健康・栄養調査の長年の積み重ねは、国の宝です。今後も継続して社会に還元して下さい。 ・おおむね良好である。
② 効率的な組織・予算運営がなされているか。	4.71	7	<ul style="list-style-type: none"> ・運営は効率的と考える。 ・運営には工夫がされていると認められる。国の補正予算の成立を待っての予算運営と聞いていますが、国はきちんとしてほしい。 ・適切な運営が認められる。 ・毎年的人员削減、予算削減が常態化していますが、その中でのがんばりに脱帽します。 ・よくやられている。
③ 研究成果は十分出ているか。 (学術論文、学会発表等)	4.86	7	<ul style="list-style-type: none"> ・かなりよく投稿されている。 ・十分な成果が出ている。 ・研究成果は十分に出ていると思われる。 ・十分な成果が得られている。
④ 倫理規定、倫理委員会は適切に運用されているか。	4.57	7	<ul style="list-style-type: none"> ・これに関連する研究は少ないが、適切に運用されている。・倫理規程の改正等、努力がなされている。 ・適切な運営が認められる。 ・問題ないと思われる。
⑤ 研究成果の社会還元は適切に なされているか。(セミナーの開催、 情報提供、知的財産の活用等)	4.71	7	<ul style="list-style-type: none"> ・情報発信は妥当と思う。 ・特許申請については、コストパフォーマンスを勘案した適切な判断がなされている。 ・社会への還元は適切に実施されている。 ・以前と比較できないほど、情報発信に尽力されています。 ・研究のための研究でなく、国の施策に役立つ研究をメインに考えていただきたい。
⑥ 他機関との連携や協力は適切 になされているか。(受託・共同研究、 連携大学院、国際協力、人材育成等)	4.43	7	<ul style="list-style-type: none"> ・共同研究はよく行われている。 ・安定した運営ができていると思われる。さらなる展開が期待される。 ・適切な連携や協力が認められる。 ・受託研究、共同研究、国際協力、若手育成等の事例発表が多数あります。 ・国際的なガイドラインや研究(共同)などの活躍が少ない。もっと発信力を高めてほしい。
総合的なコメント			<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に見ると、適切に研究が行われ、業務も十分に各事項をカバーして行われており、十分に活動している。 ・それほど大きくない組織にも拘わらず、良く計画され、成果も得られている。高齢化社会に向けた部分の研究・調査をより充実してほしい。例えば、現在急速に宅配が普及しつつあるが、この食生活パターンの変化が運動不足をもたらすのか或いは空いた時間が有効に利用されるのか。 ・限られた人員、限られた予算の中、着実な成果をあげるとともに、国民等が求める信頼のおける情報を発信しており、高く評価できる。 ・限られた状況の中で精力的な研究活動が展開され、優れた成果が多数得られていると考えられる。引き続いての活動展開を期待したい。 ・限られた人数や予算の中で研究内容も多く成果も出ている。情報発信も実施され研究所の目的を果たしていると思われる。また、以前に比べ基礎だけに偏らず、すぐにヒトに使える調査や研究内容が多くなっている。未調査、未研究への取り組みへの対応が早くなってきたことを感じる。日本の健康・栄養の研究の拠点として、今後もさらに研究成果・情報発信を期待する。 ・毎年感ずるのですが、人員、予算共に削減の中で、外部評価委員会に向けて資料を準備する、作業量も大変なことです。これを研究に注いでほしいと思います。皆様が消耗してしまうのではないかと思います。政権が変わると、凍結とは…。働いている人が将来を思い描けないのは大きな問題で、研究所の存在意義が理解されていないというのは、国のあり方(健康政策)にかかわる問題だと思います。予算削減のために何でも合併、吸収してしまうのは、日本人の健康や幸せが守られなくなるのでは取り返しがつきません。 ・大学などのアカデミズムで行われる研究ではなく、独法(国の機関)として行うべき研究、施策に役立つ研究を一層進めていただきたい。 ・総じて良くやっておられると思います。もう少しマンパワーを増やすように国に求めています。

◎評価の基準

5:たいへん優れている 4:優れている 3:普通である 2:劣っている 1:非常に劣っている

独立行政法人国立健康・栄養研究所外部評価委員会委員名簿

平成24年4月現在

委員氏名	所属・職名
○五十嵐 脩	神奈川工科大学 栄養生命科学科 教授
伊藤 裕	慶應義塾大学 医学部 教授
逢坂 哲彌	早稲田大学理工学術院 ナノ理工学研究機構 機構長
加藤 則子	国立保健医療科学院 統括研究官
川島 由起子	聖マリアンナ医科大学病院 栄養部長
下光 輝一	公益財団法人健康・体力づくり事業財団 理事長
豊田 正武	国立医薬品食品衛生研究所 名誉所員
林 清	独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構 食品総合研究所 所長
三保谷 智子	女子栄養大学 出版部 香川昇三・綾記念展示室

・敬称略、五十音順 ○: 委員長